

# 2019 余土ふるさとマップ

～余土に息づく昔からの文化を訪ねて～

写真:松山中央公園全景

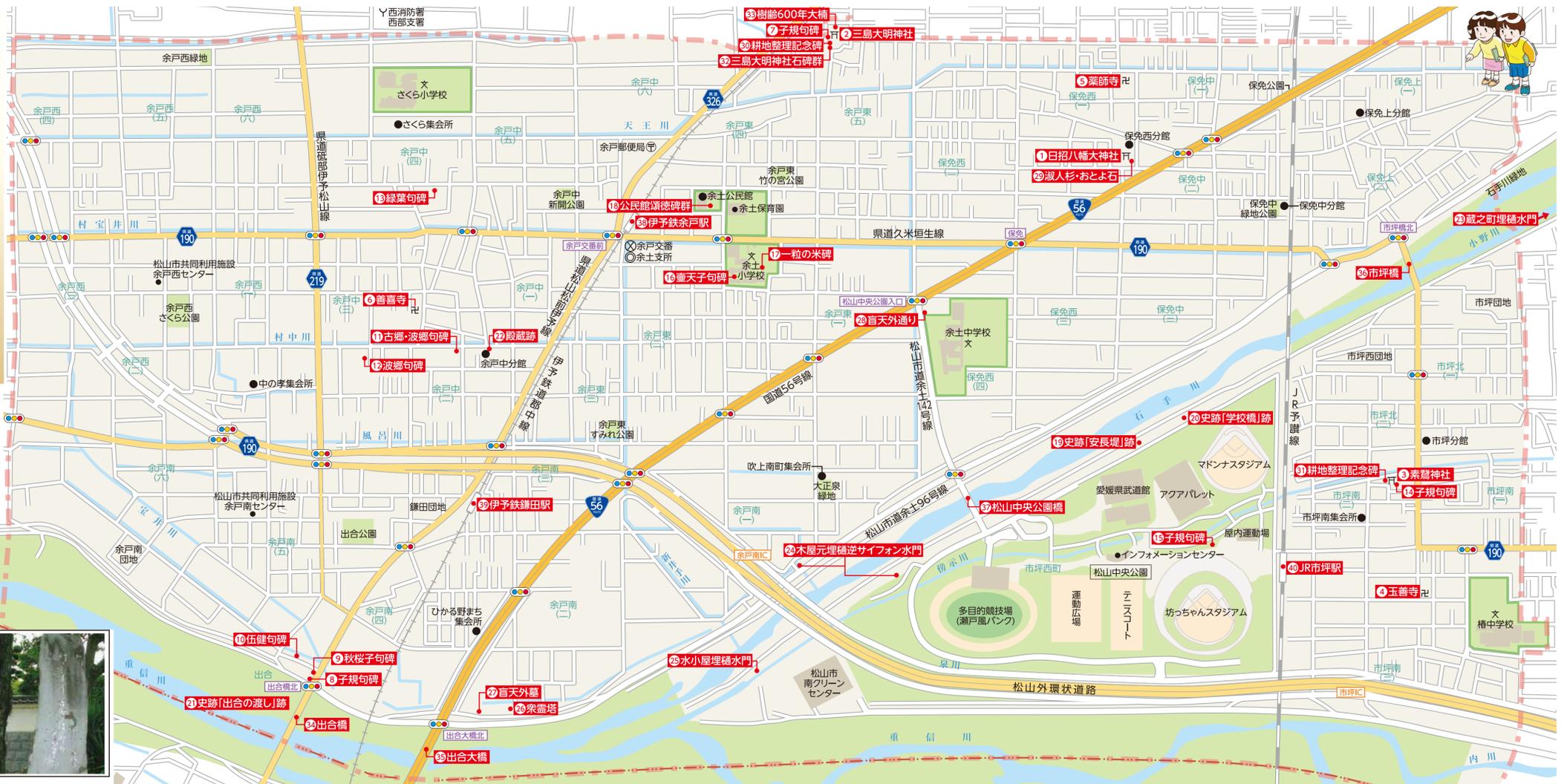
余土地区は、松山市の南西部に位置し、1889年(明治22年)12月15日に町村制施行により、それまでの伊予郡市坪村、保免村、余戸村が合併し、伊予郡余土村として発足し、これにより初めて「余土」の名称が生まれました。その後、1897年(明治30年)4月1日、温泉郡余土村に変更となり、1954年(昭和29年)10月1日に松山市に編入されました。古くは律令時代まで遡ることのできる歴史ある地区です。

約100年前の大正11年(1922年)に作られた「余土村歌」にも歌われているように余土村の人口は約3000人足らずの村でしたが、平成29年11月現在の人口は23,757人、世帯数は10,398世帯となり、市中心部から5kmに位置し、市内への通勤通学に便利なことから、年々人口が増加するとともに、急速に宅地化が進み、田園都市へと移り変わり、近年では、そのどかな田園風景も見ることがなくなりました。

地区には、石手川や重信川といった河川があり、土手には四季折々の花が咲き、松山中央公園や石手川緑地が整備され、地区住民に憩いと安らぎを与え、健康づくりの場として親しまれています。また、三島大明神社の手引き松や日招八幡大神社のおとよ石といった歴史的財産や、正岡子規の墓下第一号の句碑があるなど、俳句の盛んな土地柄、多くの句碑が建立されています。

純農村地帯であった余土は、松山市のベッドタウンとなった今、新しい余土を創造する手掛かりとなり、「若い力が伸びるまち」となることを願って、このマップを作りました。

平成31年3月  
余土地区まちづくり協議会



## みんなで創る元気で住みよい余土のまち



